

報道関係各位

社団法人 日本パーソナルコンピュータソフトウェア協会(JPSA)

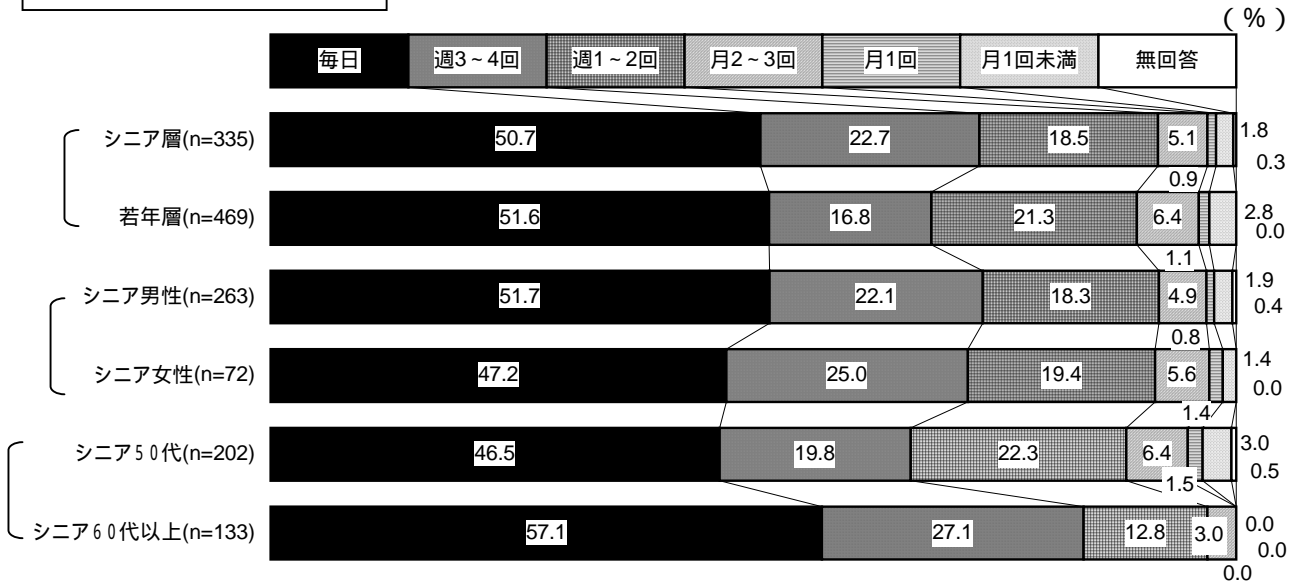
コンシューマユーザのパッケージソフトウェアに対する現状・要望の調査 (シニアユーザ編)

社団法人 日本パーソナルコンピュータソフトウェア協会（会長：川島正夫／ピー・シー・エー株式会社 代表取締役会長）では、日本自転車振興会から平成 14 年度機械工業振興資金の補助を受け、「コンシューマユーザのパッケージソフトウェアに対する現状・要望の調査」を実施した。

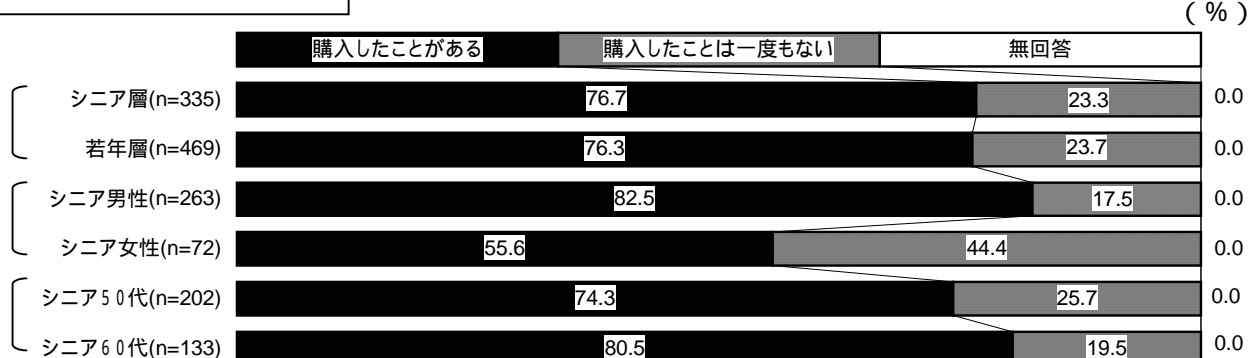
本調査では、我が国における年齢階層を要因としたデジタル・ディバイドの現状を把握し、今後高齢化が進む社会での、シニアユーザに対するパソコンソフトウェアの利用促進に資するため、首都圏・京阪神圏の自宅でパソコンを使っている層 1,800 人を無作為抽出し、50 代以上の男女をメインに、「パソコン使用のきっかけ」「パソコン使用時、不安に感じる点」「今後のパソコン利用意向」「セキュリティに対する理解、認識度」など、幅広い項目に亘りアンケートを行った。

その結果、国内では IT 利用についてシニア層と若年層との隔たりが指摘されているが、パソコンの購入に至れば、シニア層においても「パソコンの使用頻度」「ソフトウェアの購入経験」の面からは、若年層との間に大きな差異はなく、若年層と同様パソコンの利用度が高いことが判明した。

パソコンの使用頻度



ソフトウェアの購入経験



更に、シニアユーザ特有の傾向としては、以下の事柄が明らかとなった。

ワープロ代替機としての現状

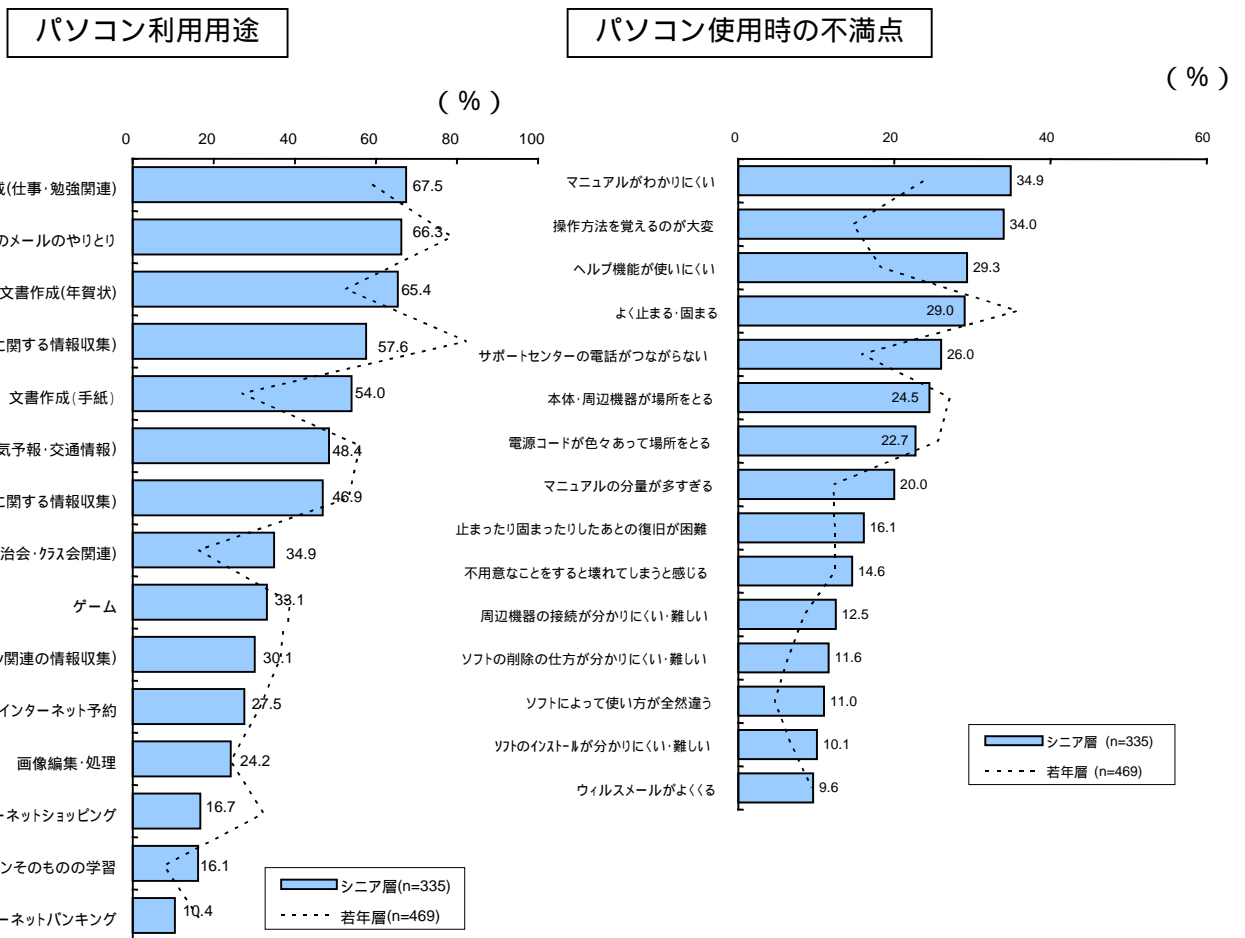
パソコンの利用用途としては「文書・資料作成(仕事)」が一番多く、6割以上にのぼる。「メールのやりとり」「文書作成(年賀状)」もともに6割台で、この3つが主な用途といえる。若年層と比較すると「文書作成」が「メール」を上回っている。また、購入経験のあるソフトウェアでは、「年賀状・ハガキ作成」ソフトが6割を超えており、用途として文書作成に偏重し、文書作成がメインであるワープロ代替機としての位置付けを脱却しきれていないことがうかがえる

サポートと操作性への不満・不安

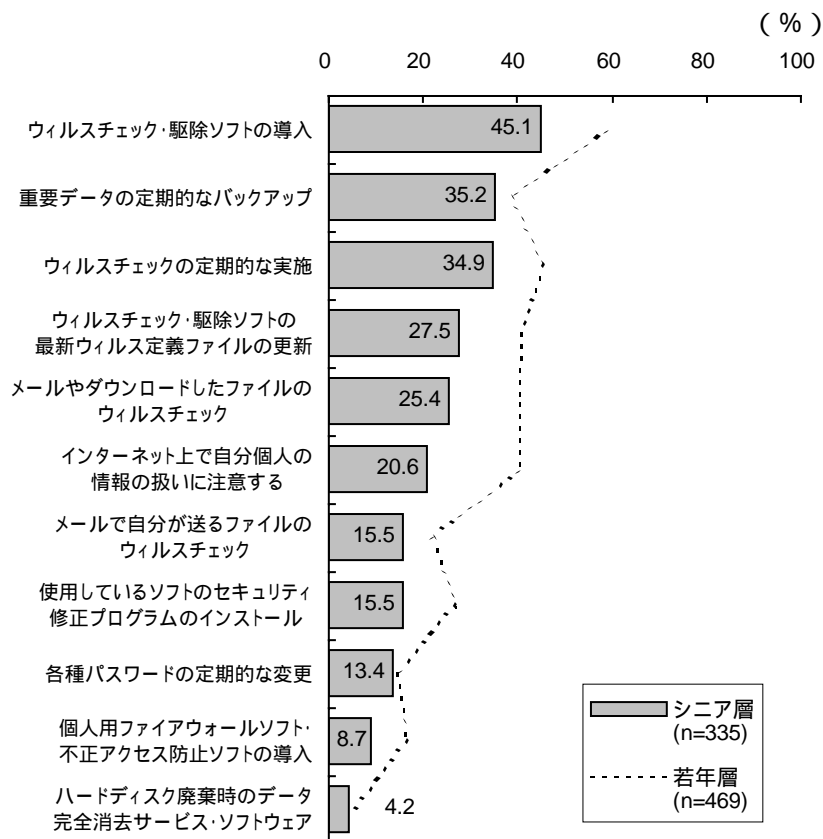
パソコン使用時の不満・困っている点としては「マニュアルがわかりにくい」「ヘルプ機能が使いにくい」といったサポート不足と、「操作方法を覚えるのが大変」といった操作性が上位にあげられている。若年層では「よく止まる・固まる」がトップであることと比べると大きく傾向が違う。「サポートセンターの電話が繋がらない」ことへの不満も若年層より強く、サポートへの期待の高さの裏返しが表れている。

いまだに低いセキュリティへの認識

セキュリティに関する事柄について、8割台で最も認知率が高い「ウイルスチェック・駆除ソフトの導入」でも、重視度は7割弱、実施率は4割台にとどまっている。重要と思うかどうかでは「自分個人の情報の扱いに注意する」がトップではあるが、実施率は2割で極めて低い。



既に実施しているセキュリティ対策



本調査は、昨年度のパソコン購入初心者に対する調査の流れを汲む属性別ユーザ調査として、JPSA 市場調査委員会（委員長：北沢昇 = エー・アイ・ソフト株式会社 代表取締役社長）が実施、株式会社日経リサーチの実査協力を得て郵送によるアンケート調査を行った。

本調査の詳細な報告書は平成 15 年 3 月下旬に発表予定。

お問い合わせ

社団法人 日本パーソナルコンピュータソフトウェア協会
 事務局 業務課 松川 (E-mail:matsukawa@jpsa.or.jp)
 〒100-0014 東京都千代田区永田町2-4-2 秀和溜池ビル4階
 TEL.03-5157-0780 FAX.03-5157-0781 <http://www.jpsa.or.jp>